

地域医療連携センターニュース

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携センター

電話 042-558-0321(代表)

FAX 042-550-5190(直通)



消化器内科のご紹介とご挨拶

消化器内科長 葉山 譲

令和3年4月1日に公立阿伎留医療センターに赴任し、本年4月1日より科長を拝命いたしました。昨年度は常勤医師の減少により、地域の先生方からのご紹介に対応できないことも多く、大変ご迷惑をおかけいたしました。この度田中医師、渋谷医師が赴任し、医師が増員されました。上部内視鏡検査、大腸内視鏡検査の検査数も昨年度より大幅に増やすことが可能となりました。今年度より大腸内視鏡検査については、検査当日にポリープの切除も適宜行ってまいります。（ポリープの大きさ・数・形態や抗血栓薬内服の有無などにより切除できない場合もありますことをご理解ください。）

また急性虫垂炎、腸閉塞、胆嚢炎・胆管炎、上部・下部消化管出血などの緊急対応も積極的に受けさせていただきます。地域の先生方の日々の診療の中でお困りの症例等ありましたら対応させていただきます。

公立阿伎留医療センター赴任以前は、日本大学医学部附属板橋病院で胆膵領域の疾患を専門として診療しておりました。胆膵領域の検査、治療は患者さんが普段あまり耳にしない疾患や処置が多く、十分なインフォームドコンセントを行い、丁寧な診療を心がけたいと思います。

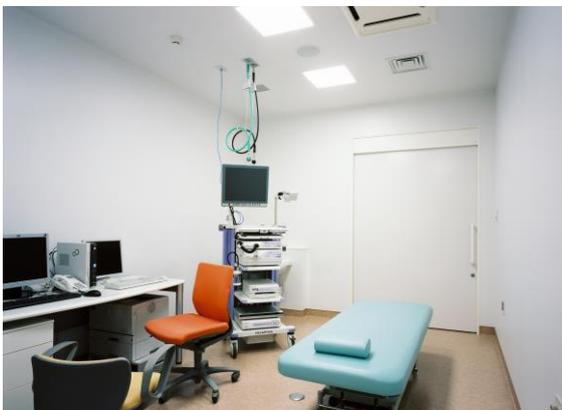
今後も地域医療に貢献できるよう努力してまいりますので、何卒よろしく願いいたします。

消化器内科医長 田中 匡実

令和5年4月から公立阿伎留医療センターに赴任し、医長を拝命した田中匡実と申します。専門は消化管腫瘍の診断と治療です。特に消化管の早期癌に対する内視鏡的治療を得意としています。

公立阿伎留医療センターに赴任するまでの9年間は虎の門病院で消化管の早期癌に対する内視鏡的切除術（特に内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD））を多数行ってきました。これまで当院では早期の消化管癌に対する内視鏡的治療はあまり行ってきませんでした。今後は早期の食道癌、胃癌、大腸癌などに対してESDを中心とした内視鏡的治療を積極的に行っていきたいと考えております。地域の先生方からも早期癌の治療や内視鏡で困った症例などお気軽にご紹介いただければと思います。また、胃癌の原因であるヘリコバクターピロリに関する臨床研修も行ってきましたので、ピロリ菌除菌などに関することでお困りごとがあれば、ご紹介ください。

4月から消化器内科の医師が充実してこともあり、内視鏡件数を増やしていく予定です。地域の先生方からのご要望にもお応えしたいと思っていますので、患者さんから内視鏡希望があればご依頼ください。



内視鏡室



消化器内科 渋谷 真史

平素より先生方には貴重な患者さんをご紹介いただき大変感謝しております。

小生は日本大学医学部を卒業し、同大学附属病院で研修医を経験しました。小生の年代からJ-osler制度（新内科専門医制度）が開始され、もともとgeneralistを目指していたこともありこの制度で3年間、研修医時代を含めると5年間をフルに活用し内科全般を学びました。その研修中に肝臓疾患に興味を持ったため消化器内科へ入局し、主に肝臓疾患、肝炎や肝硬変等の良性疾患から肝細胞癌まで幅広い肝疾患に対し診療しておりました。

その経験を経て令和3年4月から1年間の出張先として公立阿伎留医療センター消化器内科常勤医となり、さらに多く肝臓以外の消化器疾患（消化管・胆嚢膵臓疾患）を学ばせていただきました。特にこの令和3年度の公立阿伎留医療センターでの経験で、胆嚢膵臓疾患に興味を持ち、葉山譲先生（元日本大学医学部附属板橋病院消化器内科胆嚢膵臓疾患）の元、多くを学ばせていただきました。

その後、令和4年4月からは再度日大板橋病院へ戻り、小生の希望から肝臓胆嚢膵臓疾患を主に診療し、多くの症例を経験しております。また大学病院常勤の傍ら、週に1度公立阿伎留医療センター消化器内科非常勤医として外来・内視鏡診療も行っておりました。この経験を経て、さらに広く深く地域住民の方々に小生の学んだ医療知識と経験を還元したく、令和5年4月から再度、公立阿伎留医療センター消化器内科常勤医とさせていただいた次第です。

前述のように generalist を目標にしていたため、消化器疾患はもちろん、generalist としてあらゆる角度から患者さんに対し診療できると考えております。特に肝胆膵疾患で秋川流域、ひいては西多摩地域に貢献したいと思っておりました。また、ここで幸いであったのが本年度より田中匡実先生が常勤医師として赴任いただくことになり、消化管疾患（特に早期消化管癌や炎症性腸疾患等）にも積極的に治療介入できるようになりました。消化器内科としては万全の環境で患者さん・先生方の希望に添えると思っております。（余談ですが今後田中先生の元でも多くを学ばせていただこうと思っております。）

ここで強調したいのが、岡野先生・葉山先生・田中先生始め、消化器内科非常勤医師として勤務されている先輩医師の方々のお借りして、消化管肝胆膵すべての消化器疾患に対し初期対応・治療介入ができるようになったと思われ、患者さんには満足していただけると自負します。つきましては、先生方には是非今後とも貴重な患者さんのご紹介をよろしくお願いいたく申し上げます。また消化器内科だけではなく、診療科に関係なく当院では密に各科が連携し様々な疾患に対応できると考えております。

最後になりますが、我々がここで医療・社会貢献ができているのは地域の先生方の御尽力もあってのことと常々思っております。今後とも良きパートナーシップをもって互いに協力できたらと考えておりますので今後ともどうぞよろしく申し上げます。

小児科のご紹介とご挨拶

小児科医長 並木 ひでまさ 秀匡

令和5年4月から小児科医長して赴任しました並木秀匡と申します。

これまでは、日大板橋病院の小児科で先天性心疾患などを中心に診療しておりました。日頃の健診やワクチン接種、診療の中で気になる心雑音や何でもないだろうと思われる胸痛、不整脈などをご紹介いただくと先生方のお力になれると考えております。

また、今年度は常勤2名体制になったこともあり、入院にも力を入れていきたいと考えております。嘔吐しているけど一晩位なら大丈夫かな？ゼエゼエしているけど今晚は酸素を使わずに自宅で診られるかな…？など日常で少し心配なお子さんもご紹介いただくと保護者の方々にも安心していただけるのではないかと思います。

これまで地域医療にご尽力されて来られた先生方とともに、地域の子どもと周囲の環境を支え力になればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



小児科待合室